



•Tackle Guide
テンビン、テンヤ、ジギングの各タックルを持ち込めば状況に応じて使い分けができる。テンビンとテンヤで釣る場合はオモリ対策としてPE2号以下、オモリ60号で統一。ジグは150グラム以上で潮が速いときは200グラムも使う。高切れすることもあるので道糸は300メートル以上巻いておく。予備のリールを用意すれば万全だ。

「フオールで食ってくるので巻き上げて誘っていません。こんなに釣れちゃっていいのかな」とジギングの人。開始からしばらくは指幅3本級を主体に船上はフイーバー状態で釣れまくっている。タチウオの活性が高く、指示ダナに仕掛け(ジグ)が到達する前にアタるというから手返しよく釣れて数ものびる。



▲相模湾のタチウオ釣りは今後も数、型ともに期待大
▼釣り場は平塚沖の水深100~140メートル前後

相模湾の深場でタチウオ 文句なしの釣れっぷり!!

●相模湾平塚港発↓平塚沖 本誌編集部/近田憲男 Norio Chikuda

相模湾のタチウオが盛り上がりを見せているのがとても気になり2月24日、平塚港の庄治郎丸へ向かった。当日は3連休の中日でタチウオ船は2隻出た。いずれも満船の盛況。私はまるお船長こと大堀耕史船長が舵を握る6号船に乗船する。

同宿のタチウオ船には、昨年10月下旬に吉岡進さんの連載取材で訪れていたこともあり、釣り場や狙う水深など気になることをまるお船長にうかがってみた。

群れが入ってくると指幅5~6本級の大型も交じるとか。「これまでタチウオ船は水深100メートルより深くなる12月末で終了してました。深場の群れを探ったのは今年からですが、こんなに釣れるとは思ってませんでした」と船長も想定外だったようだ。

朝のうちはタチウオが水深100メートル付近にいて日が高くなると徐々に沈んでいくが、



活性の高い群れがいるときは逆に浮いてくることもあるそう。 「うちではテンビン仕掛けのエサ釣り、テンヤ、ジギングと、どの釣り方でも楽しめます。途中でテンビンからテンヤなど釣り方を変更してもいいですよ」と船長。

当日のお客さんはミヨシの突き出しにルアーマンが4名、テンビンが7名、テンヤが8名、中にはテンビンとテンヤの2タックルを用意して状況に応じて使い分けるという人もいた。

仕掛けが落ちない!?

準備ができたところで6時半に出船。5分ほどで相模川河口前のポイントに到着すると数隻のタチウオ船が集まっていた。周りの船では早くも銀色の魚体が乱舞している。これは期待できそう。

「最近タチウオがよく釣れているからタチウオ船が増えたよね。先月はまるお船長だけだったからね」と庄治郎丸に毎週通っている常連さんが教えてくれた。 「テンビンはオモリ60号、テ



▲テンヤに2本掛けを披露

右舷では掛ければドラゴン確定!? 次は自分の番と思いながら釣っていたに違いない。そんな独特の緊張感の中、右ミヨシ3番の松元さんに大物らしきがヒット。慎重にやりトリして上がったのはテンヤのハリに2本のタチウオ。「違和感があった合わせたら空振りしたけど、そのまま誘い続けられたアタリがききました。今度はハリ掛かりしたので巻き上げると2本掛かっているじゃありませんか。こんなこと初めてです」と興奮気味に話す松元さん。私もみんなの初めて見たので驚いたのなんの。 持っている人は釣るもので、そのあと松元さんは当日最大134センチのドラゴンを見事釣り上げた。

●船宿information
相模湾平塚港
庄治郎丸
☎0463-21-1312
(詳細は巻末の情報欄参照)

大堀 耕史船長

▶料金=タチウオ乗合テンビン・テンヤ1万1000円(サバの切り身エサ付き)、ルアー1万500円。各種貸りあり
▶備考=土日のみ予約乗合、6時半出船。テンヤ用のイワシエサは電話確認。ライト五目、アマダイ、マルイカへも出船

知得! Tips and Tricks
タチウオをエサにする

テンヤで釣っているのほかにタチウオの活性が高く、エサの消費量が増えるというエサが足りなくなるケースも。そんなときはタチウオの尾をカットしてイワシエサの代わりにするもの一手。常連さんの中には前回釣ったタチウオの尾を冷凍しておき、当日持参している方もいた。

▲タチウオの尾はテンヤのエサにもなる